

日本地球惑星科学連合 職種・年齢・性別 人数分布調査結果報告 (平成 23 年度)

キャリア支援委員会・男女共同参画委員会

日本地球惑星科学連合では博士取得後の若手研究者の非正規雇用に関わる問題点、いわゆるポストドク問題の調査を行ってきました。2009 年度にはポストドクの実数把握調査や個別インタビューを通して明らかになった問題点を連合大会の特別セッションなどの場で公開・意見公告を行ってきました。しかしながらこの調査では我々の分野にどのくらいの数のポストドクが存在しているのか、その増減はどのように推移しているのか、などの議論の基となるデータが必ずしも明らかになってはおりませんでした。若手研究者の置かれている環境の基礎的な情報なくして地球惑星科学分野の将来像の議論を進めることはできません。このような意図から男女共同参画委員会およびキャリア支援委員会は合同で、2011 年度連合大会の申込時に会員の職域属性調査のアンケートを行いました。期間は 2010 年 12 月 20 日から 2011 年 5 月 26 日までの間にインターネット上で連合大会の登録申し込みを行った機会にアンケートページに移動して回答(任意、完全無記名)という形で実施しました。回答項目は 18 種類の職域属性の選択、性別、研究分野、年齢分布域の選択、博士取得年などです。皆様方のご協力により 1811 名の回答をいただきました。以下に、アンケート結果から見えてくる傾向を特にポストドクに関わる問題に絞り簡単に説明いたします。回答数も十分とは言えず、これだけの情報ですべてが明らかになるわけでもありませんが、このような試みを継続することにより、より正しい認識を持つことができると信じています。

1) 回答者の職域分布図

「ポストドク(任期付きポスト)」と回答された方が全体の 24%にあたる 430 名いました。これは職域区分のなかでは最大の回答数です。この高い回答数はポストドク層のこの問題への高い関心の反映と思われます。同時に連合大会の活動や地球惑星科学分野の研究の推進役としてポストドクが果たしている役割の大きさ如実に表しているといえましょう。

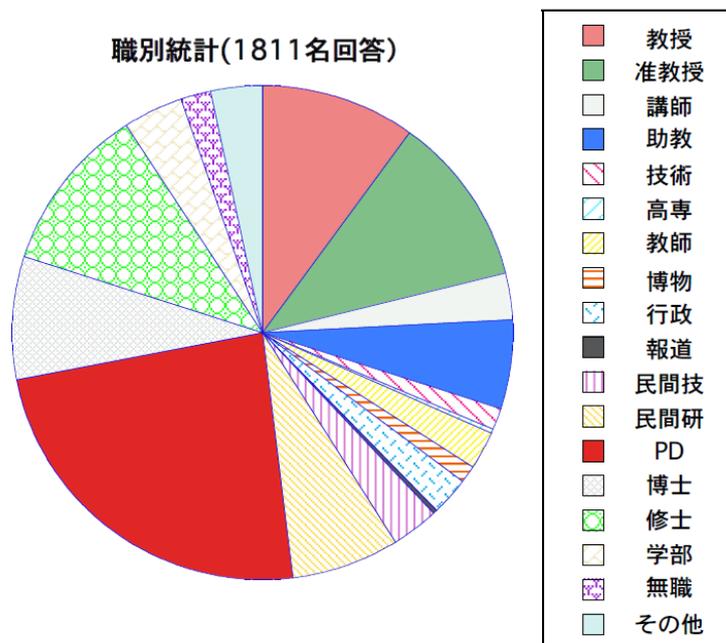


図 1. 回答者の職域分布

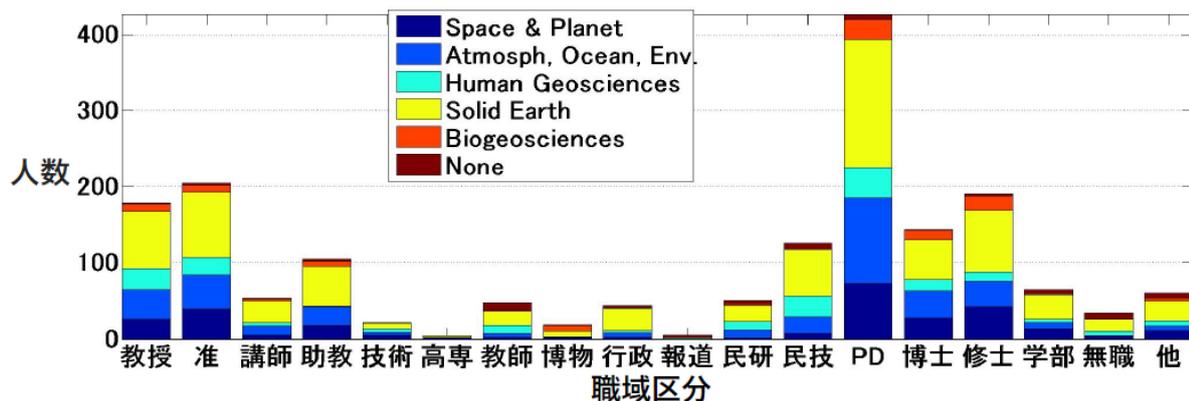


図 2. 回答者の職域・研究分野

2) 任期のない助教と任期付きのポスドクの博士取得後の経過年数

若手研究者（例えば「博士取得後の15年程度までの最も活動的な時期の研究者」と言うほどの意味）の職域分布や年齢構成を把握する意図で大学での任期制限のない助教ポストと任期付きのポスドクポスト（大学、研究機関などすべて）の比較を示します。博士取得後の経過年数のピーク値が助教ポストの方がポスドクよりも長い年数を示していますが、驚くべきことは両者がほぼ同じような分布をしている点です。以下にこのグラフの示している問題点と緊急の課題について述べます。各ヒストグラムの対象者はアンケートで博士取得年の記入を行っている者です。

- 総数から見ますと若手研究者のうち4分の3以上は任期付きのポストにいますことになります。このことは改め

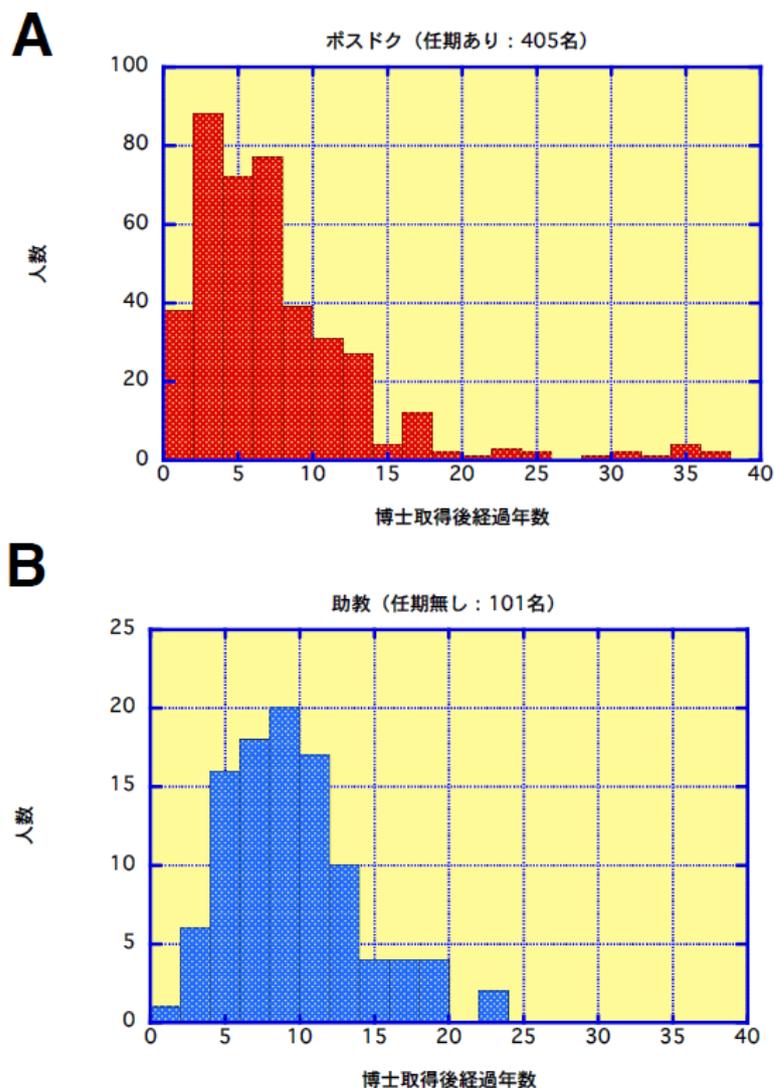


図 3. A: ポスドク（任期付き）の博士取得後経過年数、B: 助教（任期なしポスト）の博士取得後経過年数

てポストクが現在の地球惑星科学の研究の推進役であるということを再認識させます。ポストクの回答率が有意に高い可能性はありますが、連合大会の申し込みと連動したアンケートという性格を考えますと、この分野の研究活動を活発に推進している母集団を表していると考えるのが妥当です。

- 任期付きのポストにも採用時に年齢制限がつくケースが増えているのが現状です。博士取得後6～8年にあるピーク（年齢して34～36歳程度）にいる人たちにはこの年齢制限が直近の問題として立ちふさがっていることとなります。今後1, 2年のうちに緊急の対応が求められる状況にあると言わざるを得ません。同時にポストク層を研究者としてのキャリアパスの中でどのように位置づけていくのか、地球惑星科学分野全体の問題として幅広く議論をしていく必要があります。
- 更に博士取得直後の人数が少ないのも大変気がかりな状況です。これは博士課程進学者の減少傾向と相まって、地球惑星科学分野の次世代の担い手の減少を意味するものであるとしたらきわめて重大な兆候と言わざるを得ません。

3) アンケートの問題点、今後

回答は任意・完全無記名という性格上このアンケートの集計に代表される数が会員のどの程度を反映しているものなのか、判断が難しい状況にあります。今までに行われてきました各種のアンケート調査に比べて回答数は大きく改善されていますが、連合の会員数（正会員 7569名、ただし会費未納者を除くと 4842名・大学学部生 244名 2011年7月25日現在）からするとなお隔たりがあります。また個人情報の保護・匿名性の確保の制約から同一人による複数回答は排除できません。この点はアンケート調査の限界として認識しデータを眺める必要があります。

このような調査は継続を積み重ねることにより意味を持ちます。「感覚」で語るのではなく、客観的なデータの裏付けの上にはじめて適確で迅速な対応が可能であると信じます。今後ポストクの若手（博士取得後1, 2年）の数がどのように変化していくのか、ポストク層のピークが年とともに高齢化していくのか、別の職域に吸収されていくのか、見極めつつ迅速な対応が求められます。来年度以降も同様なアンケートを実施していきたいと考えております。皆様方のご協力をお願いいたします。